



Ryukoku University



Faculty of Law

法政アクティブリサーチ成果報告書
(2022年後期～2023年前期)

はじめに

2017年度に設置された「法政アクティブリサーチ」は、今期で第6期（2022年度後期～2023年度前期）を迎え、今期もまた、多様なテーマでさまざまな団体へのヒアリング調査が行われた。本報告書はその活動内容とその成果を報告するものである。

「法政アクティブリサーチ」は、学生が主体となって、法制度や政治・行政の実態に関する調査研究を行うもので、通常の授業における座学とは異なり、大学の外へ出て、社会・制度の実態を、ヒアリング調査を通じて知ること、学生の「学び」や「成長」を促すことを目的としている。それゆえ、本科目は、本学法学部の科目の中でも他にない特徴を有する科目となっている。

本科目では、学生自らが（もちろん教員が適宜アドバイスするが）、具体的なテーマ・問いを設定し（大きなテーマは教員が設定する）、ヒアリング調査先の選定、調査日程の計画・相手先との調整、質問内容の精査・決定、ヒアリング調査の実施、そのまとめと考察を行う。これらの過程では、さまざまな問題があったことと思うし、受講生らは、これら発生した問題に戸惑いながらも、それになんとか対処し、解決するため、クラスや班で、話し合い、協力して問題解決にあたったことと思われる。特に、ヒアリング調査には、一定の制約や予想外の出来事が随所にあったと思うが、学生らは、そのようなアクシデントや困難を乗り越え、本報告書を見事に完成させてくれた。このようなプロセスそのものもまた、「学び」の重要な過程である。読者のみなさんは、学生らの報告書完成に至るまでのさまざまなハードルとその乗り越えの経験、そしてこれらのことが学生らの成長の過程であることにも思いを馳せながら一読いただくと、本報告書のまた違う良さを体感していただけるのではないと思う。

本報告書が完成に至るまでには、さまざまな方々や団体のご協力があつた。ヒアリング調査を快く引きけていただいた団体のみなさま、学生スタッフ、事務のみなさまのご協力なくして本報告書の完成はあり得なかった。その意味で、本報告書は、ご協力いただいたすべてのみなさんによって作成されたものでもある。本報告書にご協力いただいたみなさんに、担当教員を代表して心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

2023年6月20日

担当教員を代表して 玄 守道

～総目次～

はじめに	．．．．．玄 守道
法政アクティブリサーチ・玄クラスの取り組み	．．．．．玄 守道
法政アクティブリサーチ・堀クラスの取り組み	．．．．．堀 清史
法政アクティブリサーチ・松尾クラスの取り組み	．．．．．松尾 秀哉
法政アクティブリサーチ・山田クラスの取り組み	．．．．．山田 卓平
第6期（2022年度後期～2023年度前期） 法政アクティブリサーチの記録	．．．．河辺 慶二・岩田 麻希（ARスタッフ）
各クラスの調査報告書	．．玄クラス・堀クラス・松尾クラス・山田クラス
おわりに	．．．．．堀 清史

玄クラス

共に生きる社会を構想する

第一章 性的マイノリティについての概要及び関連する問題	．．．．．P 19
第二章 発達障害者の就労支援と今後の展望	．．．．．P 32

堀クラス

「かおり・においと環境」

はじめに	．．．．．P 52
第一章 香りとまちづくり	．．．．．P 53
第二章 においと法律—喫煙者と非喫煙者の共存の観点から—	．．．．．P 94
おわりに	．．．．．P 109

松尾クラス
困難を乗り越える原動力

はじめに (松尾秀哉)	P 1 1 2
活動の記録 (松尾秀哉)	P 1 1 4
第一章 障がい者雇用と特例子会社	P 1 1 6
第二章 部品作りへの際限なきこだわりと熱い思い	P 1 2 2
第三章 ゲーム、そしてそのプレイヤーに対する熱い思い	P 1 3 2

山田クラス
多文化共生社会の実現のために

はじめに	P 1 4 3
第一章 外国人の相談と教育	P 1 4 4
第二章 問題点と考察	P 1 5 4
総括	P 1 5 9
法政アクティブリサーチでの学び	P 1 6 0
おわりに	P 1 6 1